

1 日 時 平成 年 月 日 () 第 限

2 学 級

第3学年 組 名(男子 名,女子 名)

コンピュータの習熟については、「情報A」教科で、「情報検索」という単元と並行して現在、学習中である。

3 単 元

「第一次世界大戦と大正デモクラシー」

～大正期の名古屋の米騒動について史料を読み解く～

4 単元の目標

- (1) 近現代史を中心として、我が国の歴史を学ぶに際して、世界史的視野に立ち、歴史の中で展開された事件が、身近な現代の事柄とつながる部分を主体的に発見させ、大正期という時代像を構築して理解させる。
- (2) 今後、主題学習を進めるに当たり、インターネットの利用を想定し、通常の授業展開において、限定されたコンテンツの中で体験させて、資料収集する際の便利さと効果を実感させる。

5 評価規準

(1) 関心・意欲・態度

- ア 歴史史料から、有益な情報を学び取ろうとする意識をもつことができる。
- イ 大正期の日本を、身近なものを題材として自分で時代像をイメージできる。
- ウ インターネットの検索機能を主体的に利用することができる。

(2) 思考・判断

- ア 大正期の政治・経済・文化の動きを、国際情勢と身近な生活文化や地域社会の変化と関連付けて考察することができる。
- イ 政党政治の成立から崩壊 と中間層の成長を教育の普及と結び付けて考察できる。

(3) 資料活用の技能・表現

- ア インターネットの検索機能を主体的に利用して情報の交換ができる。
- イ 一つの情報が次へ関連する情報をもつことに気付くことができる。

(4) 知識・理解

- ア 明治時代後半の立憲政治から第一次護憲運動までの政党政治の展開と中間層の拡大について基本的知識を身に付けることができる。
- イ 世界史的視野に立ち、近代日本の形成過程の中で、大陸との関係が変化していくことを理解できる。

6 指導計画（4時間）

学習項目	主な学習活動
<p>第1時間目：導入</p> <p>1 第一次世界大戦と大正デモクラシー</p> <p>第一次世界大戦と日本の外交 世界情勢の変化と大戦の勃発 日本の参戦と中国での権益拡大 ロシア革命とシベリア出兵</p>	<p>1 教科書の単元扉文や資料集等を利用し、前の時代との接続をして本単元の全体像を知識として理解する。第一次大戦前の同盟・協商関係を図にして理解する。教科書の地図を利用して地理的な位置関係を理解する。次時への予告。中国とドイツと日本の関係を確認する。次時、「米騒動」へのつながりを理解する。</p>
<p>第2時間目：展開（本時）</p> <p>2 デモクラシーの高まり</p>	<p>2 インターネットの情報検索機能を利用し、特に「愛知の郷土史、偉人、祭り・伝統産業」コンテンツを活用し、「名古屋」近郊の動きに引き付けて、多角的に理解する。 (後述)</p>
<p>第3時間目：展開</p> <p>3 政党政治の時代</p> <p>「平民宰相」の登場</p> <p>護憲三派内閣の成立 普通選挙と政党政治の明暗</p> <p>大戦景気と戦後恐慌</p>	<p>3 前時に学習した様々な大衆の動きが、政治の機運と結び付いて歴史を動かしていくダイナミズムを、知識として実感する。 本格的な政党内閣に世論の影響があったことを理解する。 加藤高明の業績。前時コンテンツを利用して理解する。 女性の参政権、平塚らいてうを同コンテンツで理解する。 社会運動と大衆化の関連を理解する。</p>
<p>第4時間目：まとめ</p> <p>4 国際協調と軍縮の進展</p> <p>パリ講和会議と日本 ヴェルサイユ条約</p> <p>ワシントン体制 協調外交の展開</p>	<p>4 次の単元である、「第二次世界大戦と日本」に向けて、背景となる国際関係の変化と変質を理解する。世界史的視野に立って、地図、図表を多用する。対西欧と対朝鮮、中国との二面性について、資料を使い理解する。 委細に踏み込まず、教科書の表を利用して理解する。 幣原外交の功に対する軍部の不満の高まりを確認する。</p>

7 展開例（2 / 4時）

(1) 本時の目標

- ・ 単元を学習指導要領にある主題学習の例「ア 衣食住の変化」にある食生活の多様化と社会の動向の関連についての学習に位置付け、和洋折衷の食生活、世界各地の食文化の流入の背景となったことに着目させる。
- ・ 大正期の米騒動について、名古屋へ伝播した経過をたどり歴史を身近なものとして理解できたか。名古屋における生活文化の変化を通して、歴史的な見方や考え方をもつことができたか。
- ・ インターネットによる情報検索技術の体験授業展開を経験することで、効果を実感する。

(2) 使用教科用図書と副教材

「日本史A 現代の日本史」山川出版社、自作プリント

(3) 指導過程

	ねらい	学習活動	<観点別評価>
導入 5分	<p>本時の導入に当たり、前回の復習をすることにより、授業内容の面で連続性があることを意識させる。</p> <p>コンピュータの起動、「愛知の郷土史、偉人、祭り・伝統産業」コンテンツ画面までの誘導の時間を確保する。</p>	<p>本時の鍵となる「ドイツ」について、自作プリントの空欄補充をさせながら、第一次世界大戦の同盟・協商関係を復習し、教科書のアジアにおける権益と山東半島の青島拡大図の両地図を利用して、中国における権益をめぐる対立を確認する。</p> <p>コンピュータを利用する上での一般的な注意事項と、本時の段取りの説明を聞く。</p>	<p><知識・理解> 第一次大戦期、日本がドイツと敵対関係にあったことを理解できたか。</p> <p><思考> 日本のシベリア出兵に、中国・シベリアへの勢力拡大の意図を見抜けたか。</p> <p><技能> 注意事項を遵守し、手順通りにコンピュータを利用できたか。</p>
展開 10分	<p>教科書史料「米騒動（『米騒動絵巻』部分）を見て、教員の質疑に解答する。</p> <p>Q、何をしている絵巻か。</p> <p>教科書「米騒動」部分を音読する。</p> <p>まず、全員で一緒にコンピュータを操作する。 時代で検索「大正」期を選択 知多「米騒動」を選択 同コンテンツの<概要>を読み、<学習のポイント>にある、全国に広がった具体例として紹介されていることを確認する。</p> <p>「愛知の郷土史、偉人、祭り・伝統産業」のページを、本時の基本ページである旨を徹底させる。</p>	<p>教科書の「知識」が異なる媒体による裏付けがなされ、「知識」が確かなものへと自分の中で変化することを体感する。</p>	<p><興味・関心> 史料に対して、主体的に情報を引き出そうとする姿勢が見られたか。</p> <p><知識・理解> 富山県の主婦たちからはじまり、名古屋に伝播してきたことを理解できたか。</p> <p><興味・関心> 「馬上の制服警官と剣を振る警官」対「和装に載帽の庶民」の構図に気が付いたか。</p>
	<p>コンピュータ利用技術の差がでないよう、利用の練習も兼ねている。</p>	<p>一旦、全員、本時指定した、「愛知の郷土史、偉人、祭り・伝統産業」の基本ページに戻る。</p>	<p><技能> 注意事項を遵守し、手順通りにコンピュータを利用できたか。</p>

展 開 2 20 分	<p>進度をそろえ,手順の不順による脱落状態,授業離脱を防ぐ。</p> <p>歴史史料の多角的な見方を学び,歴史の面白さと奥行きを実感させる。</p> <p>検索に時間をかけすぎないように,ある程度誘導によって利用を促すが,生徒が自分で操作している作業を尊重する。</p>	<p>教科書史料 米騒動(『米騒動絵巻』,部分)を見て,教員の質疑に解答する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>Q,史料はどこ都市が描かれているか。</p> </div> <p>教科書の説明から,「名古屋」であることを答える。 他にも発見した点を発言する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>Q,史料の看板「カプトビール」とはどんな会社か。</p> </div> <p>コンピュータを利用して自分で調べる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>インターネットの検索機能を利用して,「カプトビール」を入力検索 「半田市のウェブサイト」に行き当たる。 そこから, 半田にあった会社である 創業者は森田善平である この2点の情報を見付けだす。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「愛知の郷土史,偉人,祭り・伝統産業」の基本ページから,「半田」「知多」もしくは,直接「森田善平」で検索</p> </div> <p>コンテンツ「森田善平」の文章を読む。 「米騒動から,米だけでなく,小麦粉を日本人の食事の一つにしようと考える。」 パンを焼くことを考案する過程を理解する。</p>	<p><興味・関心> 教科書の説明だけでなく,史料に描かれた情報から解答を導きだすことができたか。</p> <p><知識・理解> 文化の大衆化について,知識をもつことができたか。</p> <p><技能> 注意事項を遵守し,手順通りにコンピュータを利用できたか。</p>
	<p>インターネットのもつ機能として,知識の連鎖を体験する。</p> <p>コンピュータ操作の得意な生徒に対して自由度の高い課題設定を行い,意識と意欲を高いままで保つ。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>同,コンテンツにある「リンク」先をクリックしてみる。</p> </div> <p>リンク先のパン製造会社のウェブサイトから,創業,歴史について更に調べる。 製パン技師ハインリッヒ・フロインドリーブ(ドイツ人)に行き当たり,知識の裏付けがなされたことを自覚する。</p>	<p><知識・理解> そのために招いた技師が,第一次大戦の捕虜であったドイツ人であったことから,当時の日本を取り巻く国際情勢の知識と関連させて理解できたか。</p>

<p>展 開 3 10 分</p>	<p>進度をそろえ,手順の不順による脱落状態,授業離脱を防ぐ。</p> <p>コンピュータの操作向上がねらいではなく,検索という作業を学習の場面で実際に活用する経験を積ませる。</p>	<p>一旦,全員,本時指定した,「愛知の郷土史,偉人,祭り・伝統産業」の基本ページに戻る。</p> <p>Q,大正期について,同コンテンツを利用して,ワークシートの空欄をうめよ。</p> <p>事前に同コンテンツから,大正期に区分される7名の業績を簡単にまとめ,名前を空欄にしたものを授業者が作成。【資料】提示された答え合わせを行うが,操作方法や感想の交換は,生徒同士の活動とする。</p>	<p><興味・関心> 新たに発生した疑問(課題)に対して,更に踏み込んで追究することができたか。</p> <p><技能> 本時に習得した技術を利用して,的確に必要な情報を入手できたか。</p> <p><思考> 大正期の米騒動の前後で,郷土で様々な分野で活躍していた偉人がいたことに共感をもてたか。</p> <p><技能・表現> 友人同士で教えあい,学びあう姿勢をもつことができたか。</p>
<p>ま と め 5 分</p>	<p>進度をそろえ,手順の不順による脱落状態,授業離脱を防ぐ。</p> <p>次時の学習内容を示し,今回の学習を振り返りつつ,その準備について確認させる。</p> <p>コンピュータの終了作業の時間と並行して行う。</p>	<p>一旦,全員,本時指定した,「愛知の郷土史,偉人,祭り・伝統産業」の基本ページに戻る。</p> <p>地区で検索「名古屋」選択 11 雉本朗造(きじもとときぞう)を選択</p> <p><教員が操作・説明をする>年譜・文章を読み,鳴海争議などの例から思想的なリーダーを輩出したことを時代の特色として理解する。</p> <p>政党政治と「平民宰相」の登場へのつながりを考察する。 (予告)</p>	<p><技能> 注意事項を遵守し,手順通りにコンピュータを利用できたか。</p> <p><知識> 「大正デモクラシー」と呼ばれる民主主義的思潮とその運動が時代背景にあったことを理解できたか。</p> <p><知識> 民衆暴動事件・民本主義の風潮について理解できたか。</p>

【資料】 <ワークシート> (例)

【「米騒動」が発生したころの大正期の名古屋の様子について調べてみよう。】

1918年に弥富の()が横綱になる。
福沢諭吉の娘と結婚した()は、名古屋電燈株式会社の株を買い占めて社長となり、木曾川に水力発電所を建設する。
佐屋の服部家の次男として生まれた()は、1924年(大正13)内閣総理大臣となるべく、政治活動をしている。
名古屋で生まれ、蟹江町で育った()は、外国の推理小説の翻訳をしながら、日本初の本格的推理小説『疑問の黒棒』を1921年(大正10)に発表する。
やがて鉄鋼の父「Steel Father」と呼ばれる()は、このころ、東北大学教授として1916年(大正5)にK・S磁石鋼を発明する。
()は、世界的な地理学者として知られ「日本ライン」「恵那峡」など命名している。
大正期に発売された「大正琴」を発明した()は、大須に住んでいる。

8 実践の反省と課題 (受講生徒のアンケートより)

実に64%の生徒が、通常の授業より『興味・関心』をもって、『意欲』的な取組をみせた(グラフ1)。この点では、こうした授業は非常に有効であったと思う。

授業の実施にあたり、本校情報科教員の協力を得ることができた。「通常の『情報A』で情報検索を行う時よりも、検索の目的が明確であり、検索する情報が実際に意味をもつことを実感しているようで、生徒たちの取組は良いのではないか」というコメントを頂いた。

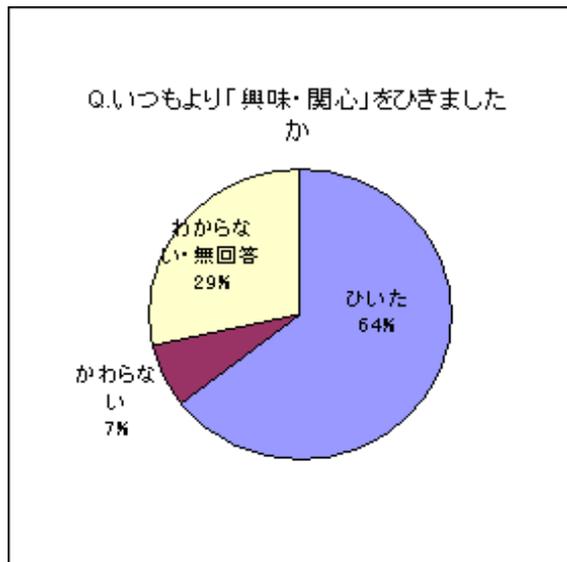
単に新鮮な授業として生徒に好意的に受け止められたとも考えられるが、「授業」ひいては学習活動に対して意欲的であるという観点でいえば、大きな効果を感じている。

また、(グラフ2)「いつもより『理解』できた」という生徒が14%いる一方、「よく『理解』できなかった」という生徒が同数の14%いたことは、コンピュータ利用技術の習熟の差が、『理解』に対して妨げとしての要因の一つではないかと考えられる。「よく『理解』できなかった」と回答した生徒は、そのまま『思考・判断』ができなかったと回答しているが、「かわらない」と答えた43%の生徒の半数が、『思考・判断』の項目で、「とてもよくできた」という回答に好転している(グラフ3)。

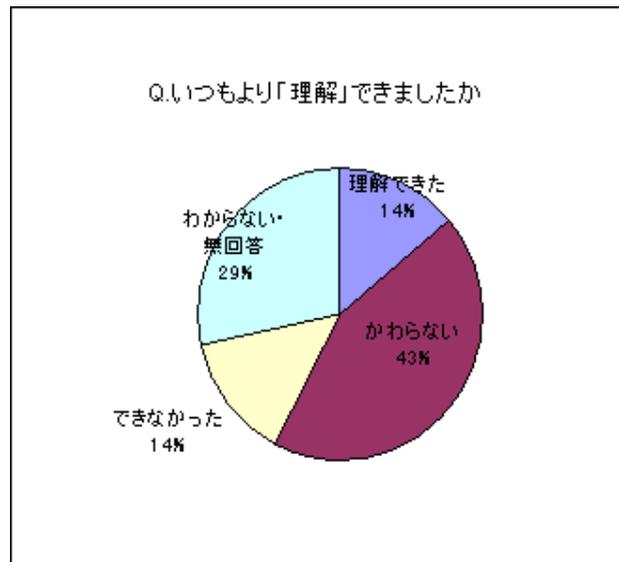
最後に、予想された結果であるが、35%の生徒が、『技能・表現』をする場面をたくさんもてたとし、否定的な回答は7%で(グラフ4)、その理由はコンピュータの利用そのものに対して苦手としている生徒である。ただし、その否定的な回答をした生徒も、『興味・関心』の項目については、いつもより関心をもてたと回答をしている。

コンピュータの学習利用がまだ一般的になっていない段階では、この実践のように、コンテンツを絞って利用させることで、『興味・関心』を高めることが十分に可能であると考えられる。「わからない・無回答」が多い点や、「また(こうした授業を)したい(14%)」という生徒が少ないことに対しては、より一層の授業の工夫が今後の課題である。

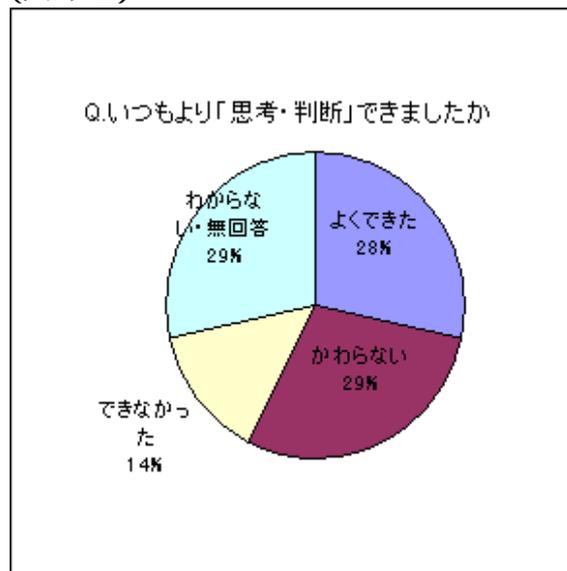
(グラフ1)



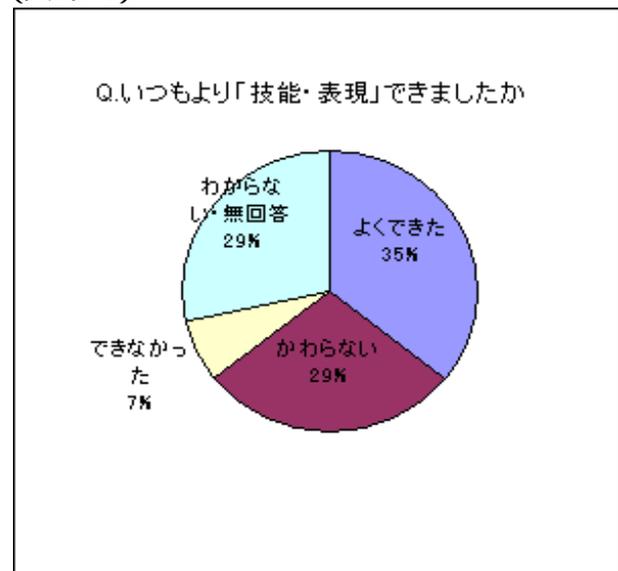
(グラフ2)



(グラフ3)



(グラフ4)



その他のアンケート項目からは、

- 「自分で調べている気がする (35%)」
- 「よくわかる、また(こうした授業を)したい (14%)」
- 「かっこいい (7%)」というものもあった。

<受講後の生徒アンケート自由作文より>

「とても楽しかった」 「興味ある事だとよいかも」
「みんなで教えあってワイワイできたね」 「たまにはいいと思う」
「もうちょっとゆっくりやってほしい」 「なんかコンピュータ自体の操作が難しい」